



●秋らしくない秋

10月中旬に地元の長野市に帰省し、散歩の最中に撮った二つの写真。左の写真は、元々小学校の農園として利用されていた場所に咲いていた「たんぽぽ」と近くに植っていた「柿の木」のコラボレーション(?)。なかなか興味深い組み合わせであると同時に違和感みたいなものも感じた。右の写真は、長野電鉄本郷駅近く的美輪神社。イチヨウなどの葉は緑の割合が高い。10月になると肌寒くなり始める長野市ではあるが、散歩の際はTシャツで良いくらいであった。

地球温暖化により、日本ならでわの本来あるべき四季が年々失われていることに、我なりに気づき、ハッとしている。生育している植物たちの不思議な組み合わせを目にしたたり自然の色彩から四季の変化を感じづらくなることが我々にとって良いことなのか否か。



(吉澤陽介 主査より：016)

●中国の大学における色彩教育・2

中国の色彩学の教本を数冊見ましたが、色彩体系から配色を選び出す方法がほとんど導かれていないので、講義は初心者でも色を選ぶ方法として、オストワルト型三角座標から配色を選び出す方法について行いました。

その中で、オストワルト型の等白色量線上の配色や等黒量線上の配色とはどのような配色なのか、そして三角座標上の明度に差を出す縦軸の配色とは、彩度に差を出す横軸の配色とは、三角に選んだ配色とは、不規則に選んだ配色とはなど、それぞれ図表を見せながら解説しました。

配色に強くなるためにオストワルトの調和論は、絵画の世界では、この理論が必ずしも調和とは絶対的に言い切れないですが、初歩の配色理論を知識として習得するためにはこの色彩体系を使い、さらに色相環配色として同じ2色相の対象的な配色でも、明度差や彩度差があると全く違う配色を作り出す事もできるというサンプル例を解説しました。

私が講義をただけだと学生たちが忘れてしまうので、今回、特別にパネル化した座標の図を作成し、大学で展示して、保管してもらうことにしました。

(田森恭子)

●大辞泉ひろいよみ 71 ーく・け

黒む：くろむ。黒くなる。黒みを帯びる。

黒筵の車：くろむしろのくるま。公家が喪中に用いた車。牛車の箱を黒く塗った筵で覆ったもの。くろぐるま。

黒め：くろめ。黒色の度合いが強いこと。またそのさま。

黒海布：くろめ。黒布。黒菜。コンブ科の褐藻。

黒文字：くろもじ。クスノキ科の落葉低木。材からようじを作る。つまようじのこと。

黒焼：くろやき。動植物を土器に入れて黒焼きにして炭化したもの。漢方薬の製法の一。

黒楽：くろらく。楽焼きの一。黒色不透明の釉薬をかけて焼いたもの。

黒枠：くろわく。黒色の枠。そのように縁どられたもの。死亡の通知や広告の枠など。

桑色：くわいろ。薄い黄色。

桑染め：桑の樹皮の煮汁で薄黄色に染めること。また、その染めたもの。

群緑：ぐんろく。日本画の絵具の一。群青と緑青とを混合したもの。また、その色。

警戒色：けいかいしょく。警戒する傾向。警戒する様子。周囲の色に比べて目立つような色彩や模様をもつ動物の体色。ハチ・毒蛇などで、有毒・悪臭の動物に多い。

*大辞泉：小学館発行国語辞典

(永田泰弘)